

# 2024年 第24回日本音楽療法学会学術大会

## 大会テーマと背景/コンセプト

北海道支部 支部長  
近藤里美

### 大会テーマ

「集い 繋がり 語り合おう～さらに拓かれる音楽のちからを」

### 背景とコンセプト

コロナ禍を通じて、音楽療法はその存在意義を揺るがせるほどの大変な状況を強いられました。生来的に音楽的な存在である私たちが、いのちを生きること必要不可欠であると思っていた音楽が、「生命を守る」ために、これまでの姿を変えざるを得なくなりました。しかしそれは同時に、「音楽は人が生きることに本当に必要なのか？」という根源的な問いを、私たち自身が再考する貴重な機会を与えてくれたのだとも感じます。

「ソーシャル・ディスタンス」という造語の下、音楽をはじめとする芸術は、オンライン機能や動画配信機能を駆使してその姿を変えながらも、消滅することはありませんでした。つまりそれは、私たちがどうにかして音楽と繋がろうとするエネルギーの表れであり、その結果、音楽は新たな姿や方法を開拓して、私たちが生きること必要であることを示してくれました。

一方で、2020年に新型コロナウイルスによる多くの犠牲者が出たイタリア、クレモナの病院の屋上から奏でられたバイオリンの音楽は、病院に入院している患者さんやその家族、医療従事者たちはもちろんのこと、世界に配信された動画を視聴した人のいのちにどれほど深く触れたことでしょうか。

今、私たちはこれまで以上に、音楽は人が生きることに必要であることを知っています。音楽は私たちが生きること縦横無尽に繋がっています。古代から現在そして未来への時間の中で、人が生まれてから死ぬまでの生活の中で、そして脳神経科学のマイクロな世界から全人的 well-being のマクロの世界に至るまで、さらには教育、文化芸術、科学技術、医療保健福祉の臨床の場の中で、様々な姿を変えながら私たちが生きること繋がっています。

そこで、2024大会では、久しぶりに皆で集い、繋がり、語り合うという、社会的存在としての私たちの根本的ニーズに応えることはもちろんのこと、私たちが様々な学問や分野との繋がりにアンテナを張り、さらに拓かれる音楽の「ちから」を探求することをテーマとしたいと考えました。